

わかりやすい予算書

—ことしのよさん—

飯豊町

2025

目次

01	地区まちづくりセンター、再始動
02-03	当初予算の概要
04-05	一般会計の歳入・歳出内訳
06-11	主要事業の概要
12-13	財政健全化指標



中部地区まちづくりセンター周辺で実施した飯豊中学校の生徒による町内クリーンアップ

本町のまちづくりの原点は「住民主体のまちづくり」であり、住民が町の将来像に向けて話し合いながら「手づくりのまちいいで」を築いてきました。現在、人口減少や急激な気候変動、さらには不安定な世界情勢が続く中で、住民一人ひとりがさまざまな課題解決に向けて行動する時を迎えています。

令和4年8月の豪雨災害において、地域コミュニティや自治組織のつながりの重要性を多くの人が再認識しました。持続可能で自立した地域づくりには、地域住民一人ひとりが地域の課題を共有し、自発的に行動を起こすことが重要です。その地域づくりの拠点として、令和7年度から各地区のまちづくりセンターの体制を変えることとしました。地域住民の近くで課題や要望を把握するまちづくりセンター職員と、担当の役場職員が連携して、地域の課題解決に向けた住民の行動と行政の支援を結びつけます。

地域づくり、まちづくりは、役場職員や地域のリーダーと呼ばれる人たちだけで進むものではありません。誰かの「困った」の中に、地域づくりのヒントが隠されていることもあります。誰もが気軽に集い、語り合える場として、地区まちづくりセンターは再スタートします。

地区まちづくりセンター、再始動



飯豊町は平成30年に東北地方の自治体で最初の「SDGs未来都市」に選定されました。

先人たちから受け継いだ美しい田園散居集落景観と農ある暮らし、伝統文化を守りながら、住民が主体となって「誰一人取り残さない」まちづくりを目指しています。



当初予算の概要



自治体の1年間の予算

予算とは、4月から翌年の3月までの1年間の収入と支出の見積もりです。新しい年度が始まる前に、その1年間でどのくらいの収入があるのか、1年間の行政サービスをどのように行うのかを計画し、そのために使うお金を見積もります。予算を見れば、1年間に飯豊町でどのような収入があり、何に使う予定なのかがわかります。

飯豊町の令和7年度予算

一般会計、特別会計、企業会計すべての会計を合わせた予算額は、108億2,483万円です。

一般会計

74億4,600万円

前年度比 1.4% 増
前年度比 1億円 増

一般会計とは、飯豊町の行政サービスの基本的な分野、福祉や教育、道路、農林の整備などに係る収入と支出を管理する会計です。

特別会計

22億2,106万円

特別会計とは、特定の目的のための会計で、特定の収入があり、一般会計とは区別して、収入と支出を経理する会計です。飯豊町には、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計など、10の特別会計があります。

企業会計

11億5,777万円

企業会計は、民間企業と同じように事業収入によって運営する会計です。飯豊町では、水道事業会計と下水道事業会計があります。

予算編成の方針

近年は、不安定な世界情勢、続く物価高騰、異常気象による自然災害の頻発化など、将来に不安を感じるような状況が続いています。また、東京一極集中による人口減少もとどまることを知りません。

飯豊町では、令和4年8月及び令和6年7月の度重なる豪雨災害からの復旧・復興経費や公債費の増大などの厳しい財政状況にありながらも、事業の見直しと再構築をしながら、「暮らし満足度No.1のまち」の実現に向けて、子育て支援、健康福祉、教育、農業など、住民ニーズに的確に応えられる予算編成を行いました。

歳出予算については、災害復旧費用として2億2,441万円や除雪費用3億5,022万円などを計上しました。予算は、地方交付税や国県支出金、財政調整基金などの各種基金を活用します。



令和7年度予算書

予算の決め方と考え方

町長がまとめた予算案を町議会で審議し、議会の議決によって予算が成立します。各課から出された案を町長の考えに沿ってまとめ、予算案として町議会に提出します。町民を代表する町議会は、提案された予算案を様々な面から審議した上で、議決します。

年度の途中における状況の変化などに対応するための予算を「補正予算」といいます。当初予算と同様に議会の議決を得て決まります。



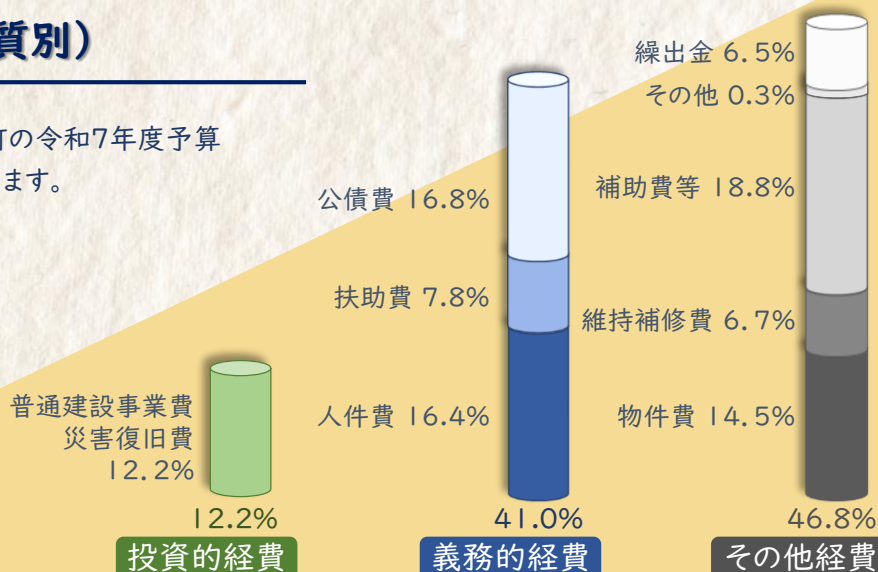
飯豊町議会議場

一般会計の歳出内訳（性質別）

歳出予算は性質別に分類でき、飯豊町の令和7年度予算74億4,600万円は、右の表のようになります。

一般会計予算総額に占める人件費、公債費など必ず支出しなければならない義務的経費の割合は41.0%です。

道路や公共施設など将来に残るものに支出される経費である普通建設事業費及び災害復旧費は、一般会計予算総額の12.2%となっています。



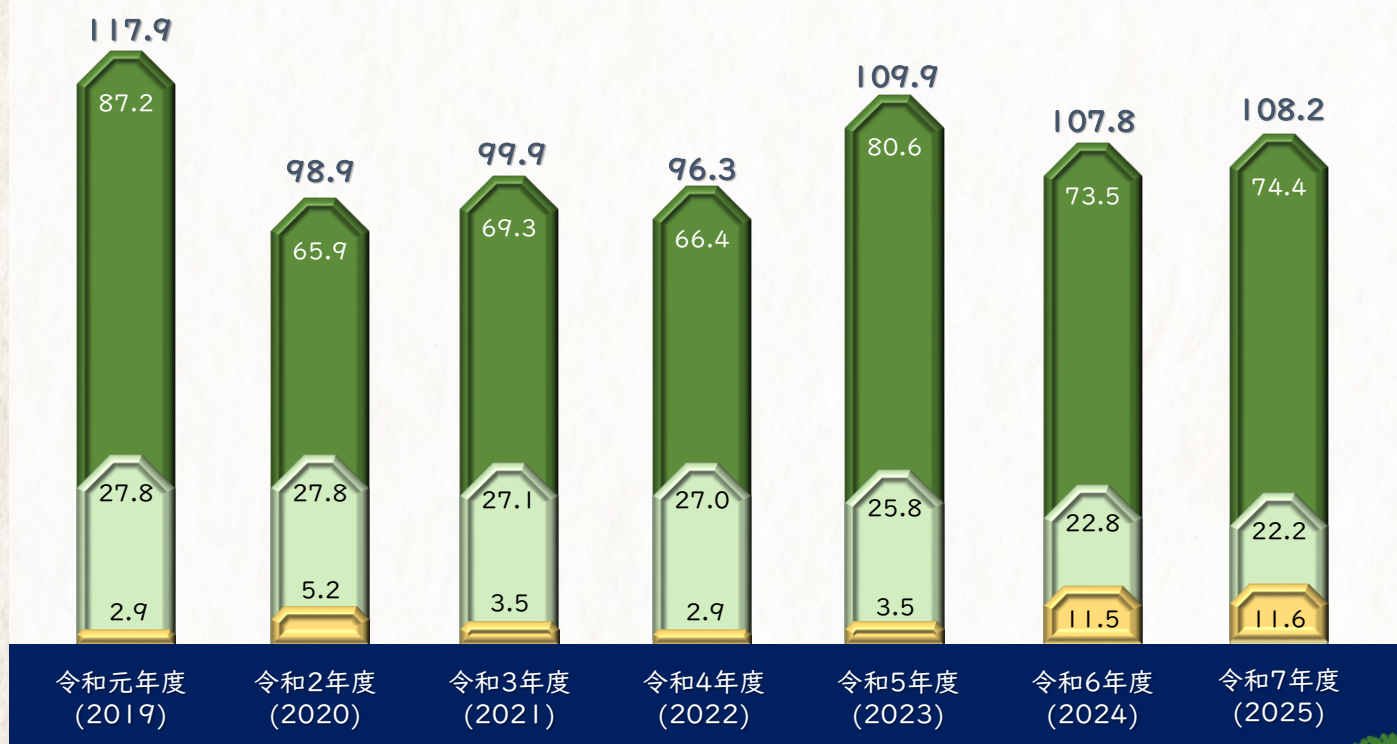
当初予算の推移

一般会計

特別会計

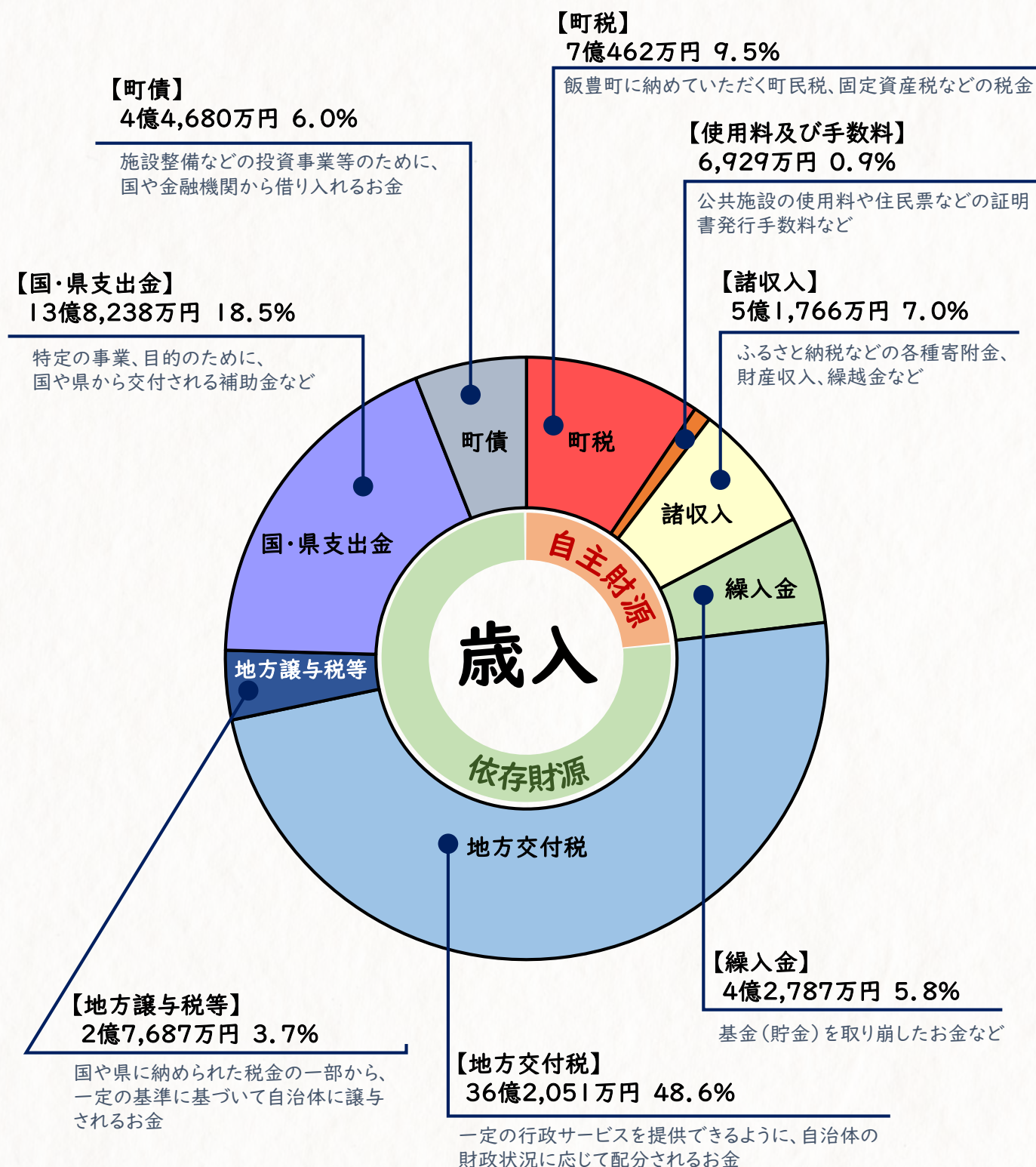
企業会計

単位:億円



※令和6年度から、下水道事業が特別会計から企業会計へ移行しています。

一般会計の歳入・歳出内訳

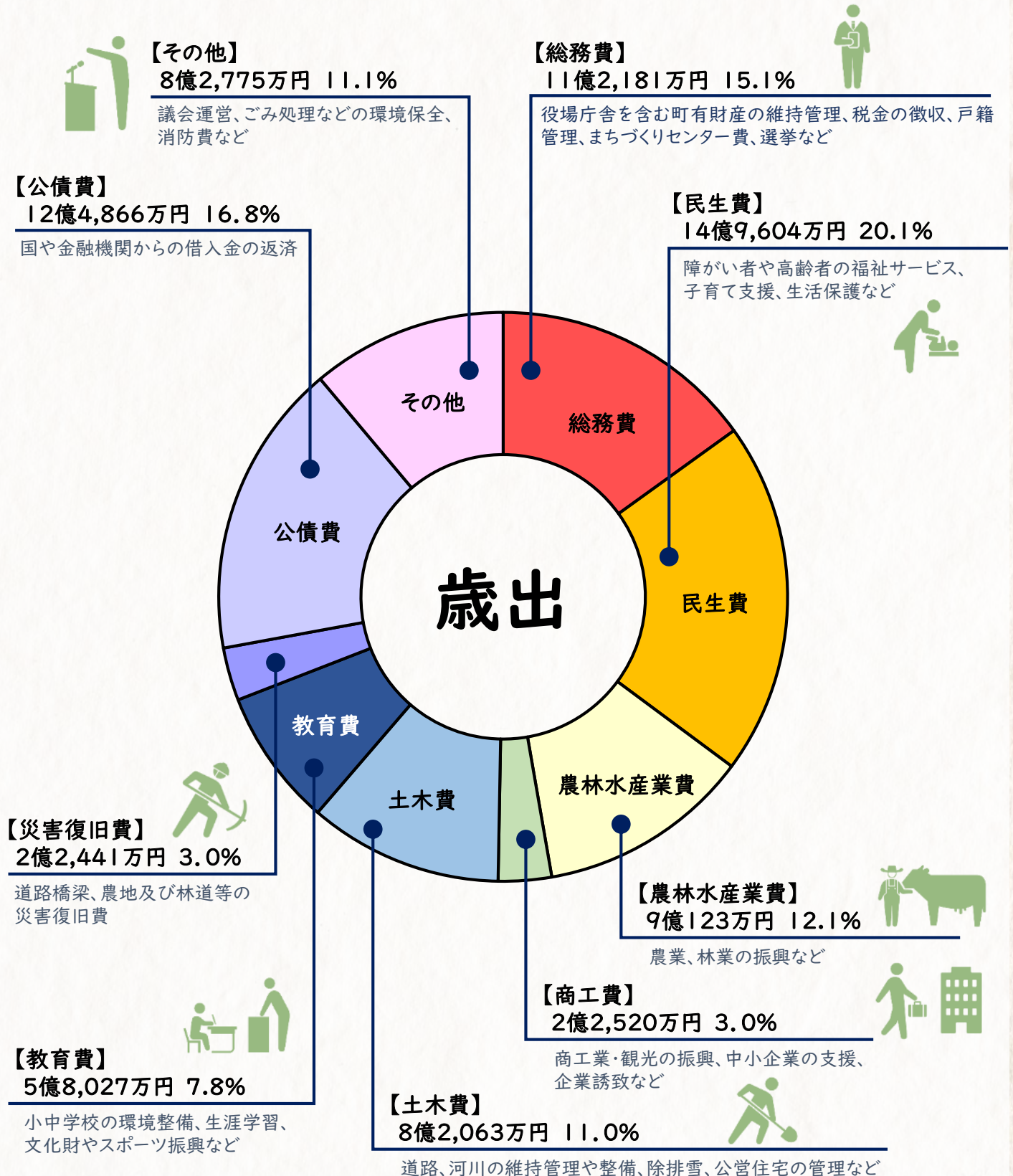


自主財源・・・町が自主的に収入できる財源

依存財源・・・国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられる収入

歳出を内容区分ごとに分類したものを、歳出の「目的別」の分類といい、民生、教育、土木など13の目的の歳出があります。

令和7年度は、老人福祉や児童手当、子育て支援医療給付などの民生費が20.1%、地方債の償還にあたる公債費が16.8%となっています。





郷土をたがやすまち

災害復旧事業【2億2,441万円】



令和4年8月の豪雨災害、そしてその復旧のさなかの令和6年7月の豪雨により、本町にはいまだに災害の爪痕が残っています。

令和7年度は、大きな被害のあった町道大平線、林道天狗山線の復旧事業のほか、黒沢地内、椿地内などの農地の災害復旧に取り組みます。

全国で異常気象による災害が頻発し、激甚化している近年において、いつ来るかわからない災害に対する備えも必要です。災害復旧事業のほか、河川にたまった土砂を撤去して川の流れを維持する事業、災害時における自治組織単位での避難について考える個別避難計画の策定などにより、災害に強いまちづくりを推進します。



町道大平線の被災箇所



林道天狗山線の被災箇所



郷土をたがやすまち

除雪事業【3億5,022万円】



町道除雪



除雪ボランティアの活動

令和6年12月から令和7年3月にかけて、近年ではまれに見る豪雪となりました。本町での暮らしは、雪と切り離すことはできません。冬期間の安全で安心な暮らしと交通を確保するため、道路の除雪体制を整備し、消雪設備を維持します。

高齢者世帯などの支援が必要な方々には、高齢者等世帯除雪支援事業による除雪費の一部支給や、除雪ヘルパーの派遣などを通じて支援します。

また、地域の共助による除雪協力体制を維持し、更に協力の輪を広げるため、飯豊町地域安全克雪方針に基づき、地域における除雪ボランティアの組織づくりや使用する機材の貸与などを実施します。



世代をつなぐまち

出産費用への補助 【150万円】



妊婦の身体的、経済的負担を軽減し、
出産・子育てをしやすい環境づくりの一つ
として、出産費用の一部を助成します。



世代をつなぐまち

赤ちゃんのおむつ用品クーポン券 支給事業【77万円】



出産・子育て支援の一つとして、生後6
か月までの赤ちゃんの保護者を対象に、
上限を24,000円としておむつ用品クー
ポン券を支給します。クーポン券は、提携
しているお店でおむつ用品と交換できま
す。



世代をつなぐまち

義務教育学校開校に向けた取組【327万円】

小中学校は、「自信あふれるいいでの子ども 安
心・元気な信頼される学校」を学校教育方針とし、
特に生徒・児童の主体性と自己有用感の育成を
大切に、教育環境の充実に力を入れます。

義務教育学校開校までの極小規模学校・複式
学級の解消を図るため、緊急的かつ段階的な対策
として、令和8年4月からの第二小学校、手ノ子小
学校、添川小学校統合に向けて準備を進めます。

また、飯豊町幼小中一貫教育グランドデザイン
に基づき、こども園から中学校卒業時までを見通し
た子どもの育ちの姿を共有し、町の将来を担う人
材育成のため、幼小中一貫した教育をさらに推進
します。



添川小学校



手ノ子小学校



縁をつむぐまち

観光交流事業【2,193万円】



水没林のカヌー



スポーツ文化ツーリズムアワード2024授賞式

白川湖の水没林は全国的に認知度が高まり、訪れる観光客も年々増加しています。令和7年2月には、白川湖の水没林における地域一帯となった取り組みが評価され「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」を受賞するなど、観光だけにとどまらない評価を得ています。加えて、令和7年4月には白川ダム河川空間のオープン化の指定を受けました。今後は、現在休館となっているフォレストいいで及びコテージの民間利用に向けた調査や公募手続を進めます。また、白川湖周辺施設を適切に管理しながら、水辺空間を活かしたにぎわい創出や地域活性化の早期実現を目指します。

水没林に限らず、本町には四季折々の美しい自然、伝統的な農村文化などの多様な資源があります。飯豊町観光協会ややまがたアルカディア観光局などとの連携により、国内外からの観光客に広くPRします。



郷土をたがやすまち

道路新設改良事業【1億5,775万円】



主要地方道長井飯豊線の改築に伴い車の流入が増加傾向にある町道手ノ子高峰線について、県道改築後の交通量の増加、豪雪等による交通障害時の代替路線としての利用を見込み、一体的な道路網の整備の一環として本路線の拡幅等の改良工事を実施します。



町道手ノ子高峰線



郷土をたがやすまち

耐震性貯水槽整備事業【2,200万円】



飯豊町の地形上、消防水利を確保できない地域が多くあります。平成17年に実施した調査では消防水利が確保できない地域が46か所という調査結果でした。この結果を元に、町では計画的に消防水利施設の整備を実施しています。令和7年度は、小白川地内と黒沢地内に耐震性貯水槽を整備します。

ふるさと納税・企業版ふるさと納税【9,239万円】

ふるさと納税は、町外に住む方が飯豊町を応援するために寄附をし、町から寄附のお礼として特産品を送る仕組みです。町の貴重な財源の一つであると共に、本町の魅力ある産品を町外の方に知っていただく機会でもあります。寄附者を選んでいただける新たな特産品の発掘や、特産品の魅力が伝わるウェブサイトでの情報発信などと共に、これまで寄附していただいた皆様とのご縁を継続していけるようにPR活動を行います。

企業版ふるさと納税は、町の地方創生の取組に対して企業が寄附をする仕組みであり、町の事業推進の強力な後押しとなります。企業に対して町の取組を広くPRし、賛同する企業と寄附の増加を目指します。



米沢牛



飯豊産米



地域づくり推進事業【957万円】



第5次飯豊町総合計画「地区別計画」の目標実現に向けた地区の活動支援、地区間で連携して行う事業(地区間連携枠)、新たに何かをやってみたいという町内団体等への支援(全町枠)など、住民主体の地域づくり活動に対し支援します。

第5次飯豊町総合計画は計画の期間が令和3年度から令和12年度の10年間であり、計画期間の5年目にあたる令和7年度には計画の中間見直しを行います。令和8年度からの計画期間の後期に向けて、各種事業の進捗を精査し、計画の見直しを図ります。



飯豊で幸せになる事業【1,000万円】

住宅取得、結婚、出産、お子様の進学など、人生の節目においてお祝いを送り、飯豊町での幸せな暮らしを応援する『飯豊で幸せになる条例』によって定住を後押しします。

現行の条例は令和7年度で終了となります。次年度以降に向けて、町に住む方のニーズに更に適応した条例の制定に取り組みます。



移住定住促進事業【856万円】

人口減少対策として、本町に移住する人を増やし、定住を促進する必要があります。

本町には四季折々の美しい自然、伝統的な農村文化、豊かな食材などの多様な資源があります。これらを一体的に体験し、本町での暮らしの魅力を感じることのできるツアーの実施や、移住に関心を持つ方へのPR、そして東京23区から町へ移住した方に対する移住支援金などにより本町への移住を促進します。また、町に住む方にとっても魅力的なまちづくりを推進します。



菅笠づくり体験





世代をつなぐまち

高齢者支援【2億1,425万円】

12 つくる責任
つかう責任



15 緑の豊かさ
守ろう



ほのぼのサロンでの運動

老人クラブやほのぼのサロン、いきいき百歳体操などの事業を通じて、高齢者が地域とのつながりを保ちながら健康維持や生きがいづくりをできるように後押しをします。

また、様々な理由により自宅で生活することが困難な高齢者が養護老人ホームに入所できるように措置をする高齢者保護措置や、地域ボランティアとの協働により定期的に高齢者の自宅を訪問し安否確認を行う安心見守り事業、配食サービス事業などにより、高齢者の安全安心な暮らしを守ります。



人をはぐくむまち

地区まちづくりセンター事業【8,686万円】

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



令和7年度から、まちづくり室及び地区まちづくりセンターを町民総合センターから企画課に移管しました。地区まちづくりセンターは、生涯学習の場としての機能は維持しつつ、地域づくりの拠点としての機能を強化します。

まちづくりセンター職員2名と役場職員が連携して、地域の方々から課題や困りごとなどを聞き取りながら、住民一人ひとりが参加できる地域づくりを目指します。



中津川地区の水仙ロード整備



縁をつむぐまち

空き家対策事業【6,112万円】

12 つくる責任
つかう責任



15 緑の豊かさ
守ろう



大巻橋付近の建物

全国的な問題となっている空き家の増加。特に損傷が激しく、近隣の住環境に悪影響を及ぼしかねない空き家を老朽危険空き家と呼び、解体などの対策が必要となります。本町では、老朽危険空き家の解体にかかる補助を令和6年度から上限100万円に引き上げ、所有者による解体を後押ししており、令和7年度も継続して実施します。また、倒壊のおそれがある大巻橋（小白川地内）付近の建物を町が略式代執行にて除却し、近接する県道や町道を安心して通行できるようにします。

保存状態が良く活用可能な空き家は「空き家バンク」の制度を通じて、空き家所有者と空き家の購入・賃貸を希望する方をつなぎ、活用を促進します。



可能性をひらくまち

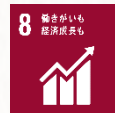
商工業振興事業【5,808万円】



町内の中小企業の振興が地域経済の活性化や社会活動の活性化、そして町全体のにぎわいに繋がります。このことから、「飯豊町中小企業振興事業費補助金」を継続し、創業支援や既存企業の事業機能強化・向上等を支援します。

「電動モビリティ地域共創コンソーシアム」を中心に、モノづくりへの興味喚起のための学びの場の提供などにより人材育成を推進し、地元に定着する若者を増やしていく取組を展開します。

また、令和7年度も飯豊町商工会加盟店舗で利用可能なプレミアム付クーポン券を発行し、町内店舗の利用拡大につなげます。



可能性をひらくまち

持続可能な森林づくり事業【1,506万円】

本町面積の8割以上は森林です。地域林政アドバイザー、森林組合などの森林事業者や各財産区、地権者などと協議しながら森林活用に向けたロードマップを作成するため、航空レーザー測量で森林の状況を正確に把握します。

測量をもとに、森林所有者の意向調査や境界確定を進め、森林環境譲与税を活用しながら森林の適正な維持・整備を促進するとともに、新たな林業従事者の確保に努めます。



郷土をたがやすまち

地球温暖化対策事業【559万円】

地球温暖化対策の代表的なものが、二酸化炭素の排出削減です。本町では令和2年にゼロカーボンシティ宣言をし、2030年までに町全体の二酸化炭素の排出量と吸収量の差し引きゼロを目指して脱炭素に取り組んでいます。令和7年度は、地域特性を生かして脱炭素を実現する環境省の「脱炭素先行地域」に米沢市と共同で選定されました。今後、さらに脱炭素の取組を加速します。

脱炭素に向けた家庭・工業・農業・交通等の各分野での取組を強化すると共に、周辺自治体との連携も強化するため、専門的な知識を有する人材を地域活性化起業人として委嘱します。



可能性をひらくまち

飯豊・農の未来事業【70万円】

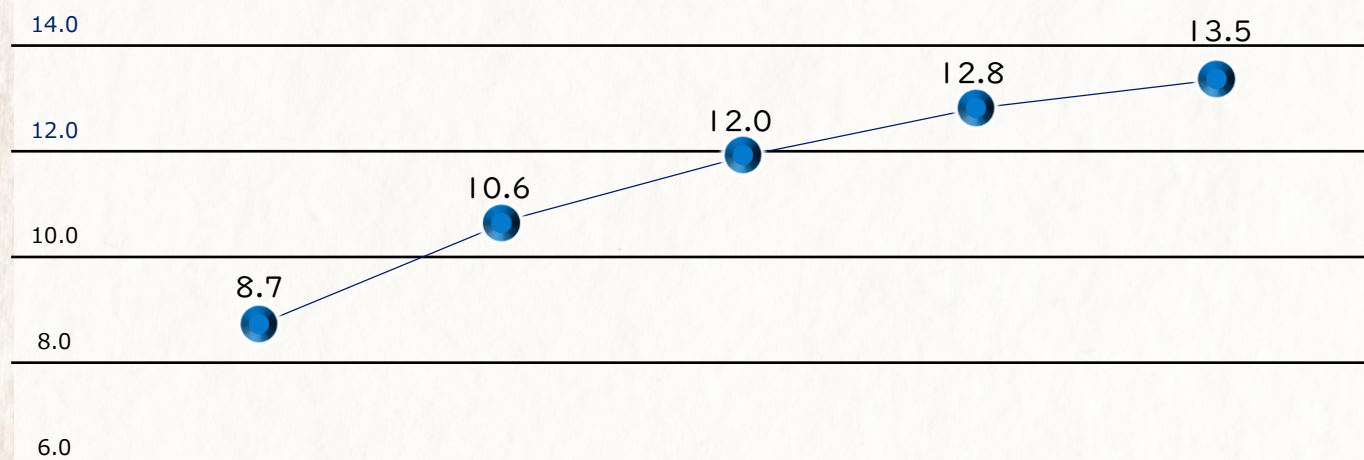


「飯豊・農の未来事業」は11年目を迎えます。持続可能な農業の実現に向けて、学校給食への地場産品利用による地消地産の取組や、地場産品の6次産業化に向けた補助事業を実施します。



実質公債費比率

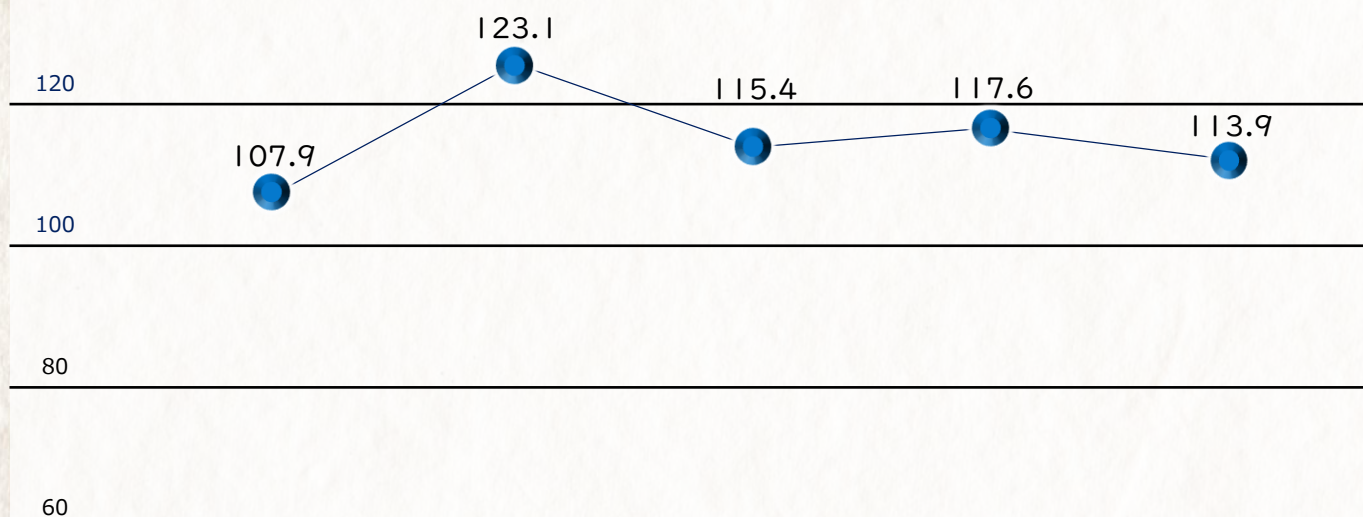
単位：％



実質公債費比率は、一般会計等が負担する地方債の元利償還金(町の借入金の返済金)などの大きさを標準財政規模に対する割合で表した比率です。この指標が18%を超えると起債(借金)をする際に知事の許可が必要となり、25%を超えると一部の起債が制限されます。令和5年度は13.5%となっています。

将来負担比率

単位：％



将来負担比率とは、地方債や職員の退職金など、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の大きさを標準財政規模に対する割合で表した比率です。この比率が高い場合、将来これらの負担額を実際に支払う必要があることから、今後の財政運営が圧迫されるなどの問題が生じる可能性が高くなります。令和5年度は113.9%となっています。

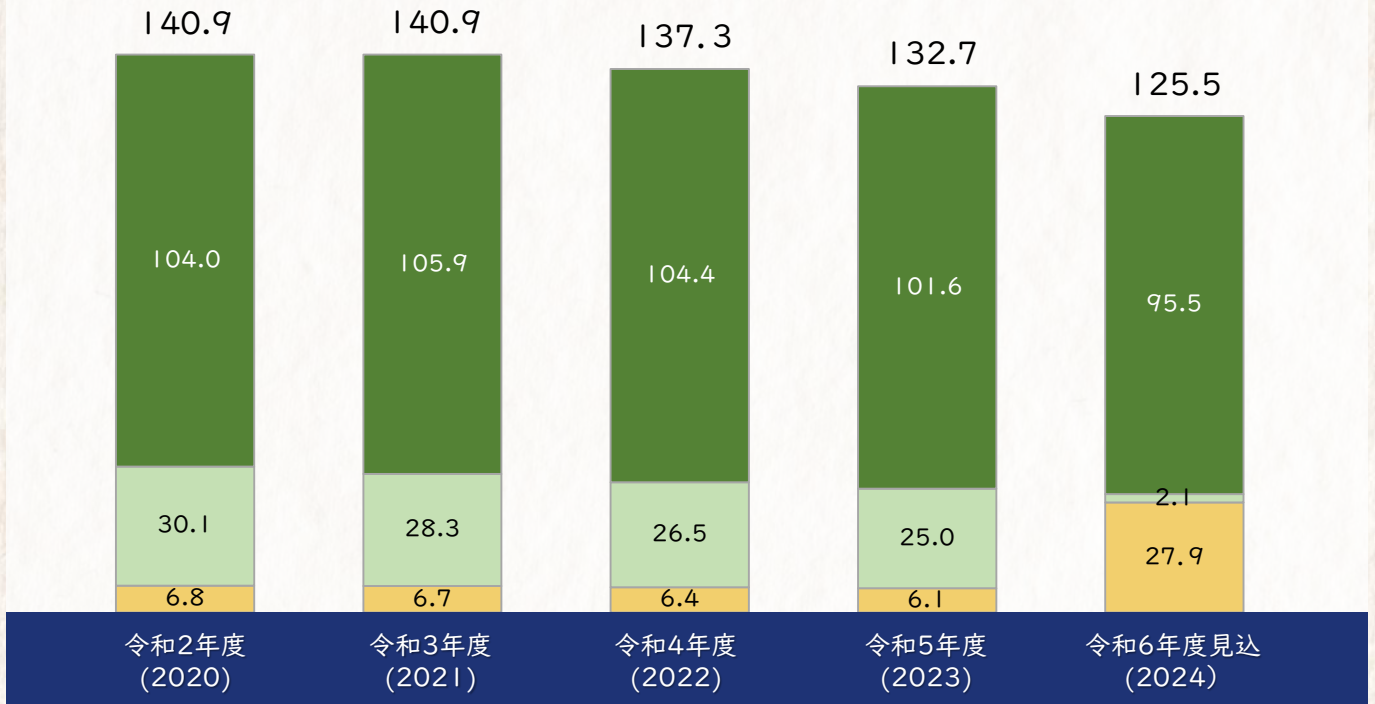
町債残高

一般会計

特別会計

企業会計

単位:億円



町債は、大きな事業をするときに、国や金融機関等から借りる資金です。道路や建物などは、たくさんの人が利用することから、その年の予算だけで賄うのではなく、将来の町民の方にも費用負担いただく「負担の公平化」も、町債を発行する理由の一つです。平成2年度は約140億9千万円。令和6年度は約125億5千万円になる見込みです(下水道事業が令和6年度に特別会計から企業会計となったことに伴い、令和5年度と令和6年度予定の特別会計・企業会計の数値の差が大きくなっています)。

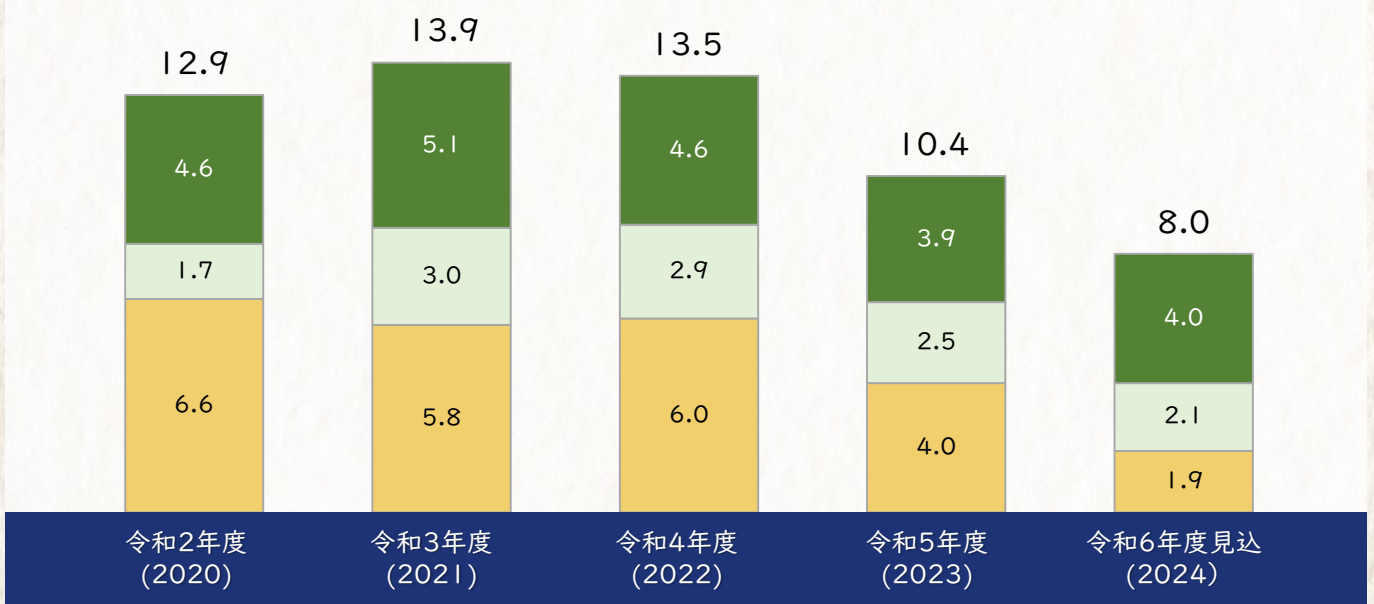
基金残高

財政調整基金

減債基金

その他基金

単位:億円



基金とは、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設ける財産です。家庭で言えば貯金です。年度間の財源不足に備えるための「財政調整基金」、町債の償還(借金の返済)に必要な財源を確保し、財政の健全な運営を行うための「減債基金」などがあります。令和2年度は、約12.9億円。令和6年度は約8億円になる見込みです。

わかりやすい予算書
飯豊町 2025



〒999-0696
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地
TEL (0238)72-2111

飯豊町はNPO法人
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県